

文化・芸術



「牛」

1922年、クレヨン、紙
20・34×29・24

国吉康雄 (1889~1953年)

大川美術館から

〈名画の扉〉

本作は、国吉康雄がと語っています。一直米国で注目されはじめ線の背筋を持ち、逆三た時代の一点です。この角形にデフォルメされた時期は、牛や鶏、植た形態が特徴的な物、子どもなどをモチーフに素朴な風合いの作品が描かれました。「牛」。牧歌的なイメージのなかには独自のユーモアをのぞかせます。

本作では、当時岡山市に生まれ、1吉のトレードマークと906(明治39)年、17歳で単身渡米し、苦勞して働きながら美術を学んだ国吉は、のち米を代表する画家の一人として活躍しました。激動の時代のなかで、国吉と日本をさすらい続けた画家は、名もなきものたちの命をうので、それを汲み尽くすまで描き続けた」

(小此木)